

2020 年 1 月幹事会 セミナー幹事資料

【議題 7】2020 年度 第 24 回夏セミナーについて

1. 準備の進捗

各セッションについて、以下のように演者候補を選出した。

セッション 1 トランスポーター

- ・タイトル (仮): ヒトトランスポーター機能のフェノタイピングのための新規ツールの利活用
- ・組織委員: 東京大学 前田 和哉 先生、アステラス製薬 岩坪 隆史 先生
- ・講演内容及び演者候補 (内諾未):
 - －PET を用いた肝胆系輸送の関わる薬物相互作用の定量的評価
理研 中岡 貴義 先生 (or、渡辺 恭良 先生にご推薦いただいた方)
 - －トランスポーター内在性基質の血中濃度変動を基にした PBPK モデリングとの連携による薬物相互作用リスクの定量的予測
横浜薬科大 吉門 崇 先生
 - －humanized liver mice を用いたトランスポーターを介した薬物相互作用の定量的評価
東レ 内田 将史 先生

セッション 2 細胞治療

- ・タイトル (仮): ニューモダリティ創薬で求められる薬物動態研究の発展
－細胞治療における貢献とは－
- ・組織委員: 第一三共 渡邊 伸明 先生、武田薬品工業 森脇 俊哉 先生
- ・講演内容及び演者候補 (内諾済):
 - －細胞治療のオーバービュー
FIRM-MEASURE、第一三共 花田 雄志 先生
 - －細胞治療における非臨床動態の役割
武田薬品工業 山本 俊輔 先生
 - －キムリアの臨床開発と承認
ノバルティスファーマ 米田 智廣 先生

セッション 3 バイオアナリシス

- ・タイトル (仮): 企業研究者が対応すべきバイオアナリシスの規制と多様性
- ・組織委員: アステラス製薬 大津 善明 先生、横浜薬科大学 栗原 隆 先生
- ・講演内容及び演者候補 (内諾済):
 - －規制下のバイオアナリシスとは何か
中外製薬 宮山 崇 先生

- ICH M10 ガイドライン：現状と今後の予定
国立衛研 石井 明子 先生
- がん免疫療法の開発に用いられる多様な生体試料分析法
LSI メディエンス 林 洋充 先生

特別講演 1（内諾未）

- 「エクソソームの臨床応用の話」
東京医科大学（国立がんセンター） 落合 孝弘 先生

次候補

- 「医薬品の開発における AI の活用」
医薬基盤研究所 AI 健康、医薬研究センター センター長 水口 賢司 先生

特別講演 2（内諾未）

- 「Muse 細胞を用いた臨床応用」
東北大学 出澤 真理 教授

次候補

- 「iPS 関連の臨床応用について」
京都大学 iPS 細胞研究所 金子 新 准教授

会長講演

- 杉山 雄一 先生

2. 今後の予定

- ・ ～2 月末：すべての講演者の決定（内諾）
- ・ 4 月中：現地会場での打ち合わせ（事務局 CRO も参加）
- ・ 6 月上旬：参加募集開始